



2024.9.16

AtomOS 11.10.00 ファームウェアリリースノート

Shogun Ultra

インストール方法

ファームウェアのアップデートを開始する前に、ShogunUltra を主電源に接続することをお勧めします。

1. フォーマット済みの SSD をドッキングステーションに挿入してください。
2. ダウンロードしたファイルを解凍し、ATOMSGU.FW ファイルを SSD のルートにコピーしてください。
3. SSD をドッキングステーションから抜いてください。(OS のガイドラインに従います)
4. Shogun Ultra に SSD を挿し込んでください。
5. Shogun Ultra の電源を入れると、ファームウェアのアップデートが自動的に開始されます。

注意: Shogun Ultra の電源が入っている場合、新しいファームウェアを含むドライブを挿入すると、ファームウェアのアップデートを実行するよう促されます。

6. アップデートが完了すると、Shogun Ultra の電源が切れます。
7. Shogun Ultra の電源を入れ直すと、デバイスは自動的に更新プロセスを完了します。
8. ファームウェアのアップデートが正常に完了したかどうかを確認するには、メインメニューに移動し、情報タブにスクロールします。

注意: Shogun Ultra にファームウェア 11.10.00 が正常にインストールされると、内部ハードウェアモジュールを更新するために本体が再起動することがあります。ファームウェアのインストールを中断しないでください。

新機能

AtomOS11.10.00 では、Atomos デバイスから直接、Frame.io Camera to Cloud サービスとペアリングする新しい方法が導入されました。また、多くのバグ修正と安定性の向上も含まれています。

Atomos デバイスから直接 Frame.io Camera to Cloud とのペアリング

デバイス上でのペアリング手順

1. Wi-Fi またはイーサネット経由で、Atomos Connect 対応機器をインターネットに接続します。
2. メインメニューの Connect タブに移動し、デバイスの接続モードとして Frame.io を選択します。
3. メニュー画面の左側に QR コードが表示され、Frame.io アプリ(携帯電話にインストールされている場合)、またはウェブブラウザ経由でプロジェクトを設定する場合は <https://app.frame.io/> URL にアクセスできます。
4. 右側には 6 桁のコードとその下に 120 秒のタイマーが表示されます。これは、このペアリングコードが有効な時間を示しています。
5. Atomos デバイスを Frame.io C2C プロジェクトにペアリングするには、Frame.io アプリに入るか、ブラウザからウェブアプリにアクセスします。
6. C2C Connections を有効にした新規プロジェクトを作成するか、すでにお持ちの既存プロジェクトの C2C Connections を有効にします。
7. プロジェクトを選択した後、C2C Connections タブに移動し、「Add new device」オプションを選択します。
8. Atomos デバイスの Connect メニューに表示されている 6 桁のコードを Frame.io の入力フィールドに入力し、Frame.io アプリまたはウェブページから事前に選択した Frame.io プロジェクトへの接続を承認します。

カメラからクラウド録画モード設定に関する注意事項

ペアリングが完了すると、Atomos デバイスに新しいメニューページが表示され、Frame.io のペアリング状況を確認したり、デバイスの録画設定を行うことができます。

- ・録画モードでは、デバイスをシングルまたはデュアル録画モードに切り替えるオプションがあります。デュアルモードでは、デバイスは高品質の ProRes RAW、ProRes、または Avid DNx ファイルを SSD に記録し、バックグラウンドで Frame.io にアップロードされるより小さなファイルサイズの Proxy を生成します。
- ・最大解像度設定は、アップロードするファイルの解像度を定義するために使用します。
- ・品質は、LQ(3Mbit/秒)、MQ(8Mbit/秒)、HQ(15Mbit/秒)、またはカスタム設定を選択できます。
- ・カスタム品質を選択すると、アップロードするファイルの仕様を微調整するための様々なパラメータを変更できる別のページに移動するボタンが出現します。そこでは、bit 深度(8bit または 10bit)、bitrate(1~30Mbit/秒)、GOP の長さ、B フレームの有効/無効を設定できます。

不具合修正と改善

- ・録画コーデックとして H.265 が選択されている場合に、録画モードから再生モード(およびその逆)に切り替わる際の遅延を軽減しました。
- ・RTMP ストリーミング出力が ~15 分後に中断されることがある問題を解決しました。
- ・デバイスを再起動すると、[Sync Config]メニューの[Network Role]が[Client]から[Server]にリセットされる問題を解決しました。

今後のリリースで解決される既知の制限事項

- 録画モードと再生モードを切り替えた際、Wi-Fi およびイーサネット接続の再確立に最大 10 秒かかる場合があります。システムが自動的にネットワークに再接続するまで時間をおいてください。
- B フレームを有効にして録画された H.265 クリップを再生しようとする、一時停止と再生のコントロールができないことがあります。
- NDI RX モードのデバイスで A/V のずれが発生することがあります。
- SRT Listener モードで Wowza を使用してストリームを開始する場合、SRT 出力を検出するのに最大 2 分かかることがあります。
- 再起動後、デバイスがインターネットに接続されるのを待ってから C2C の録画を開始してください(最大 10 秒かかる場合があります)。接続が確立するのを待たないと、C2C の保存先フォルダに重複してアップロードされてしまう可能性があります。
- RAW + Proxy C2C モードでは、デバイスに Sony FX9 からの 2Kp59.94 RAW が供給されている場合、録画は無効になります。
- RemoteView モードでは、フレームレートを途中で切り替えると UI がフリーズすることがあります。RemoteView の使用中は、フレームレートの変更を行わないことをお勧めします。
- 録画フォーマットとして H.265 を選択した状態で DCI 4K 解像度に切り替えると、RemoteView が期待通りに動作しない場合があります。RemoteView モードで記録形式として H.265 を選択する場合は、16:9 に固定することをお勧めします。
- 720p を HDMI/SDI 経由で他の機器に出力する場合、受信側で画像のアーチファクトが発生する可能性があります。
- 720p50 および 720p59.94 で記録された H.265 クリップを再生すると、ズームおよび波形モニター機能が無効になります。
- WFM モニターツールは、8kp30 および 6Kp60 RAW 入力では使用できません。
- 記録フォーマットに H.265 を選択した場合、Network Record Control は使用できません。
- YCC SDI 入力で ProRes RAW 記録モードを起動した場合、モニタリング画像が正しくないことがあります。ProRes RAW モードで Shogun Ultra に RAW 信号を出力しながらのモニタリングと録画は、期待通りに動作します。
- HDMI 互換モードを選択したまま異なるカメラモデルを切り替える場合は、新しいカメラを接続する前に Shogun Ultra を再起動してください。
- 1 つの Shogun Ultra に 2 つの AtomRemote アプリを接続すると、パフォーマンスが低下する場合があります。1 つのデバイスにつき、1 つの AtomRemote アプリのみをペアリングしてください。
- 3/4 以上のオーディオ入力を有効にして H.265 コーデックを録画すると、オーディオトラックが録画されない可能性があります。
- 4Kp60 入力を p59.94 出力の Live Show に接続すると、送信に失敗します。入力信号を p59.94 に設定すると、ストリーミングできるようになります。
- C2C へのアップロードは、デュアルレコードコーデックモードでは、矢印がアップロード中を示しているにもかかわらず、ファイルのキューで立ち往生することがあります。キューをアップロードできるようにするには、Connect ページに移動し、Connect モードを無効にしてから有効にするか、デバイスを再起動してアップロードを再開します。
- スケジュールされた再生または録画がアクティブになったら、デバイスの日付/時刻を変更すると意図しない動作をすることがあります。
- SDI ソースモードで DETECT を Auto(カメラファイル名/トリガー/タイムコードの一致)に設定した場合、カメラからのタイムコード入力を認識できないことがあります。この場合、入力ページで DETECT を OFF に設定し、タイムコードページでソースを Rec Run に設定し、入力ページで DETECT を Auto に設定すると、ソースが正しく表示されます。
- C2C を有効にして H.265 ビデオを再生すると、選択したファイルが黒い画面だけで起動しないことがあります。メニューに戻り、メニューを閉じると再生が始まります。
- デュアルレコードを有効にして DCI アスペクト比で撮影すると、プロキシファイルは HD アスペクト比にトリミングされます。